DOGDAYS 黒騎士と呼ばれた転生者

ハイランダー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DOG DAYS 黒騎士と呼ばれた転生者

【Nコード】

N5705Z

【作者名】

ハイランダー

【あらすじ】

神にいきなり残り寿命の紙を破り捨てられ、たいした死因も無く、いきなり死んだ転生者がドッグデイズの世界に転生する物語です

Fate/zeroのキャラも出ます！

第1話（前書き）

新連載です

初転生者物です

不安たっぷりですがよろしく願います

第1話

あれ？何でた？空が真っ赤だ…

あれ？真っ赤なのは自分じゃないか？

あれ…？

-
-
-

「
……
」

「
……
」

「アンタ、誰？」

「神」

やあ、俺の名前は…分かんない
いきなり何が起こってるか分かんないよね？俺にも分かんない
だっていきなり目の前が真っ赤になって
もう一回目覚めたら何か白い空間に居て
自分の事神って名乗るイタいおっさんが目の前に立ってるんだよ？
意味分かんないよね？

そうだ！これはきつと夢だ！あの某銀色の侍の
記憶喪失フラグっぽい事言った気がするから
目が覚めたら記憶無くなってるパターンだよ！

「残念だけど現実そんな甘く無いのよ」

おっさんが何か言ってるけど気にしないで…
早速寝よう！次に起きるのは病院のベットだろ！

「やれやれ…」

-
-
-
-

すぐにおっさんの手を振り払う

「力加減を考えろ！頼った、ちぎれるだろうが！！」

「頼はちぎれねえよ、だがこれで夢じゃないって分かったか？」

「まあ、分かったけど……でも俺は死んだんだろ？」

「ああ」

おっさんが頷く

「何で？」

「俺の気まぐれ」

「……えっ？」

……イマナント？

「だから、俺の気まぐれでお前の残り寿命の紙を破り捨てた」

「はああああああ！？」

気まぐれで殺されたの俺！？

「ふざけんじゃねえよ！何で気まぐれで死ななきゃなんねえんだ！」

「まあまあ、そんなカッカッすんな」

「誰のせいだ!!」

「で、お前を転生させる所だけだよ……」

おっさんは一枚の紙を俺に渡す

「…ドツグデイズ？」

「ああ、そうだ。お前にはその世界に行ってもらっつ

「ふくん、で？どんな世界？」

「行ってみりゃ分かる」

はい？

「え？行く所の説明とか無いの？」

「めんどくせえ」

「はあ！？そういうもんはちゃんと言っべきじゃ……」

「じゃ、行ってこい」

「人の話聞けやあああああああ!？」

俺が突っかかるうとするとおっさんが指を弾き

俺が立っていた床に大きな穴が開いて俺はそのまま落ちていった

「おぎゃあ！おぎゃあ！」

「良かったですね、元気な男の子ですよ！」

こうして俺が産まれた

あのおっさん…今度会ったら絶対ぶっ飛ばしてやる！

第2話（前書き）

グダグダな予感…

原作一話あんまり覚えてないんですけどよね…

第2話

どうも〜気がついたら十六歳になってた転生者で〜す

いや本当に目覚めたら転生物ではよくある幼少期があるのかと思っ
たら普通に朝起きた感じでさ

日本で元気な高校生やってました！

「誠二！いい加減に起きなさい！シンク君達が来てるわよ！」

「は〜い...」

俺は部屋を出てリビングで飯食って玄関へ行く

- - - - -

玄関を出ると金髪の男子と茶髪の女子が立っていた

「おはよう、誠二！」

「おはようさんシンク、レベッカ」

「相変わらずの寝坊助ね……」

シンクとレベッカは近所に住んでる中学生だ

五年前くらいに引っ越してきた時小学校が一緒だったから仲が良かった

え？引っ越す前は何処に住んでたって？
あれだよ、リリカルでマジカルな所だよ

「まあ、とりあえず行くこうぜ

お前から今日終業式だろ？」

ちなみに俺はすでに春休みに入っている

- - - - -

「そついえば春休みの予定決めてる？」

レベツカが話を切り出す

「俺は特に無いな、後で原チャリ取りに行く
ぐらいかな」

「僕はイギリスに帰って特訓するつもりだよ」

「ああ…今日出発だっけ？」

「うん、そうだよ」

「じゃあ、乗つけてやるよ
確か早退すんの昼ぐらいだよな？」

話しているうちにシンク達の通うインターナショナルスクールにつく

「じゃあ、昼くらいにまた来るわ！」

「うん！また後でね！」

.....

「おっちゃん！原チャリ取りに来たぞ！」

俺はバイクショップのおっちゃんに言う

「おお、来たか！ちゃんと整備してあるぞ！」

「サンキュー、おっちゃん！」

おっちゃんは俺の父親と仲が良いらしく
引越してきた時から良くしてくれてる

「しかし、春休みにバイクを取りに来るとは…まさかコレか？」

と笑いながら小指を立てる

「そんなんじゃないよ！」

という感じでおっちゃんと話して時間を潰した

「あつ、もうこんな時間か…おっちゃん俺行くわ！」

「なんか用事か？」

「ああ！シンクを空港まで送るんだ！」

「シンク…ああ…あのハーフの子か…」

「じゃあな、原チャリありがと！」

俺は原チャリに乗ってインターナショナルスクールへ向かう

「おう！気いつけるよ！」

-
-
-
-
-

「ふう…ついた…さて、シンクは…」

俺は校門前らへんを見渡す

「あ、いた…おーい！シンクー！」

俺は校舎の二階らへんにいるシンクに手を振る
シンクは振り替えずと二階部分から飛び降りる

「まさに曲芸だな…ん？」

シンクの予想落下地点に小道具みたいな短剣をくわえた犬がいた

「何で犬が…！？」

犬が短剣を地面に突き刺すとでかい魔方陣みたいなのが出てくる

「まさかメルヘン的な事が！？」

俺は原チャリを走らせ校内に入り魔方陣に直行するシンクを助けよ
うとするが間に合わず

シンクは魔方陣に落ちていく

「シンク…！！…！！？」

俺が気付いた時には原チャリの前輪が魔方陣に沈んでいた

「え？嘘…あ…！！！！！」

俺も魔方陣の中に落ちていった

第2話（後書き）

レベッカかなりの空気にしてゴメン（笑）

思考錯誤の未書き直しで更新が遅くなりましたすみません！

次回は主人公紹介の予定です！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5705z/>

DOG DAYS 黒騎士と呼ばれた転生者

2012年1月9日04時49分発行